

横浜サイエンスフロンティア高等学校における英語教育の課題と即興ディベートの導入

現任校の英語教育における課題として、「話すこと[発表]」はできるが、「話すこと[やり取り]」が弱い点が挙げられます。この課題の解決策の一つとして、1・2年生の授業に即興ディベートを部分的に取り入れしました。その結果、英語科の教員がその効果を実感したため、3年生の授業にも即興ディベートを導入することとなりました。

学習指導要領では「統合的な言語活動」が重要なキーワードとされており、「統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成する」と明記されています。また、白井(2023)は、「大量のインプットと少量・適量のアウトプットが学習に重要である」と述べています。

今回採用した“Logical English Reading”は、

- ・「聞いた内容についてディベートで話し合う」
 - ・「読んだ内容についてディベートで話し合う」
- という構成になっており、SLA(第二言語習得)理論にも合致していることから、生徒の英語力向上に適していると考えました。

即興ディベートの実践例

ディベートは、学校設定科目“Comprehensive Skills”(英語コミュニケーションⅢに相当)で実施しました。1つのテーマを2週間にわたり扱い、1回の授業で30～40分程度の活動を行いました。以下に、Lesson 5 “Should child labor be acceptable?”を題材とした授業の略案を示します。

1 週目

1. 生徒は、child labor(児童労働)の定義についてインターネットで調べ、英語で話し合う(Small Talk)。
2. “Should child labor be acceptable?”について、1対1のディベートを行う。
3. 賛成意見のリスニングを行い、ペアで概要を確認する。
4. 賛成意見のディクテーションを行い、ペアで確認する。
5. 語句を確認し、ペア活動で覚える。
6. 賛成意見の速読を行い、ペアで概要を確認する。
7. 賛成の理由を、本文を参考にして英語で伝え合う。

2 週目

1. 生徒は、児童労働に反対する理由について英語で話し合う(Small Talk)。
2. 反対意見のリスニングを行い、ペアで概要を確認する。
3. 反対意見のディクテーションを行い、ペアで確認する。
4. 語句を確認し、ペア活動で覚える。
5. 反対意見のリーディングを行い、ペアで概要を確認する。
6. 3対3のディベートを行う。
7. 「児童労働をなくすためには何ができるか？」についてペアで英語で話し合う。

解答は事前に生徒へ配布し、分からない部分は自分で調べるよう指導しました。生徒はペア活動やディベートに意欲的に取り組んでいました。

導入の成果と今後の展開

授業後に実施したアンケートでは、

- 「3年次でディベートに挑戦することで英語力が向上したと思いますか？」という質問に対し、約8割の生徒が肯定的な回答を選択。
- 「Logical English Reading を使用することで英語力が向上したと思いますか？」という質問には、約7割の生徒が肯定的な回答を選択しました。

さらに、共通テストの結果も例年と比較して良好でした。もちろん、これは“Logical English Reading”だけの効果ではありませんが、3年次で行ったディベートのパフォーマンステストでは、1年次と比べて「即興的に2分程度、スラスラと英語を話す生徒」の増加が顕著であり、教員もその成長に感動しました。

こうした成果を受け、現在、現任校では 附属中学校から高校まで学校全体でディベートを取り入れる方針 で調整を進めています。今後も、生徒の英語力向上のために効果的な指導法を模索しながら実践を続けていきたいと考えています。

参考文献

白井恭弘(2023).『英語教師のための第二言語習得論入門』大修館書店.

プロフィール

山田 祐司 先生（横浜サイエンスフロンティア高等学校 英語科教諭）

現在教員歴は、12年目。貿易会社→定時制高校→現任校という、少し変わった経歴です。教員生活でどう教えればいいのか悩み、教職大学院で働きながら学びました。卒業後、大学院で学んだSLAの理論と経験を融合させた授業を行っています。趣味は華道。

